

# 住民の機転が大惨事救う

両総用水路の決壊事故

合併30年 よもやま話 —その3—

小沢 春光 (栗山)



3代目町長 権名 登氏



4代目町長 伊東 岩氏

農業構造改善事業の要項が示され、横芝町に協議会が設置されたのは昭和38年のことです。これに先立つて、広報や有線放送で「機械力を導入し、その余力を果樹栽培や畜産などの他産業に振り向けて、営農の改善を図る」などの要旨がPRされていました。

その効果でしょうか、公民館活動としての学習を続けていた大総地区の若妻学級では、自動耕運機の運転免許を取得したいという声が出てきました。この要望はたちまち全地区の若妻学級に波及し、さらに一般からも同様の声があがつてきました。

そこで町や農協では、集団検定をめざして、免許取得講習会を開くことになりました。参加した70名を越える人々は、真

剣な受講態度で取組み、その結果、38年4月に松尾中学校庭で行われた出張検定では、99パーセントの合格率という好成績を収めたのです。

その日は、伊藤績夫町長、農協の大木信夫青年部長なども付添われ、心配そうに見守つておられた姿が目に浮かびます。

## 若妻学級で耕運機の勉強

### 坂田池に白鳥飛来

機械化農業に明日への夢を託す横芝町に、一瞬の明るさと反省を投げかけたのは、坂田池に飛来した3羽の白鳥でした。

昭和39年12月、坂田池周辺の水鳥を観察していた横芝中学校のクラブ員の双眼鏡の視野に、見慣れない白い水鳥の姿が映りました。そこで町や農協では、集団検定をめざして、免許取得講習会を開くことになりました。参加した70名を越える人々は、真

盛に開かれた合併10周年記念式典(横中講堂)



ました。「近所で飼っているガチョウでは」と思ったのですが、図鑑を調べてみると、粉れもなく白鳥です。さっそく先生に連絡し、池の周辺のハンターに協力を求めました。またPTAでも、役員さんたちが町の有線放送を通じて、一般への協力を呼びかけるなどして、「ぜひ白鳥の定着を」と願ったのです。

ところが、次第に池の中央から岸辺近くまで遊泳するようになってきたある朝、仲よく泳いでいた白鳥の姿は消えていました。白鳥が遊泳していた辺りには、白い羽が散乱し、釣針にえさの大豆をつけた竹の棒が浮かんでいた。

7 4 1 横芝駅跨線橋完成  
47年 町予算10億円突破  
海の子どもの国開園  
元日本兵横井庄一さんがアムで発見、浅間山荘事件起ころ、「恍惚の人」ベ

45年 5 農協のカントリーエレベーター完成  
6 役場庁舎増築、中央公民館完成  
1市3町消防組合設立  
1一日県庁当町で開催  
9 郡市広域行政組合設立  
10 台風25号で被害甚大  
11 高度成長の目玉である大型工場各地に林立し公害問題が深刻化、米の生産調整始まる、日本万国博覽会開く

あし  
あと

46年

消防組合横芝分署完成  
町長に伊東巖氏当選  
大混乱、成田空港強制閉鎖  
執行、ボーリングブーム

9 7 6 4  
11 10 9  
6 5  
45年